

和の光

宝塚市立西谷中学校



省略

■アサギマダラ・プロジェクト～ついに開花しました～



見事に咲き誇るフジバカマ（10月1日撮影）

前年度に卒業した3年生がグランドの花壇に植えたフジバカマが西谷の寒い冬を乗り越えて春に新芽を出してました。その後も夏の酷暑にも負けることなく順調に成長を続け、ついにピンク色の花を咲かせました。それぞれの進学先で勉強や部活動などに全力で取り組んでいる卒業生を祝うように見事に咲き誇っています。

まだ、アサギマダラ（蝶）の姿は見られないですが、西谷中のフジバカマにも飛来してくれることを心から願っています。今後、さらにフジバカマを増やすために株分けをしていこうと考えています。（10月1日）

■10月生徒朝礼の様子

生徒会主催の生徒朝礼が行われました。今回の生徒朝礼では、新たな取り組みとして「お昼の放送リクエストボックス」を各クラスに設置することが発表されました。また、ペットボトル回収運動で回収したペットボトル（クリスマスのイルミネーションづくりに活用するそうです）をフレミラに届けたことが報告されました。

各委員からの報告に続いて、今回は仲間探しゲーム（各自が受け取ったカードに書かれた8種類の職業を身振り手振りで表現し、自分と同じ職業の仲間を探す）を行いました。警察・消防・救急隊・教師・大工・プログラマーなどの職業を分かりやすいように工夫しながら身振り手振りで表現しながら、皆で楽しく取り組む姿を見ていると、西谷中生の学年を超えた絆の深さを感じました。（10月3日）



各委員会からの活動報告



リクエストボックスの紹介



ゲームで盛り上がりました

■部活動地域移行に係る説明会「ドローンサッカー」

部活動の地域移行に向けて、「ドローンサッカー」の活動の紹介が行われました。会場の本校体育館には市内の小中学校から小中学生と保護者の方が多数参加し、主催者から説明を受けました。また、プログラミングとドローンの操縦体験も行い、参加された方々はとても満足されていました。（10月4日）



ドローンを操縦しました

「自己肯定感」と「自己有用感」を育む

校長 筒井 啓介

昨今、様々な国際的な調査で、日本人の「自己肯定感」の低さが指摘されています。「自分はダメだ、自分は役に立たない、どうせ頑張ってもうまくいかない…」など、自信が持てない日本人が多いとの報告がされています。

「自己肯定感」とは自分の価値や存在意義を肯定できる感情のことです。「自尊感情」と同じ意味で使われることもあります。「自己肯定感」が高い人は、**ありのままの自分を認めることができ、他者のことも認めることができる**といわれています。また、**自分に自信が持てるので困難な事にも諦めず取り組みでいくことができます**。是非とも、子どもたちに育てたい感情です。

一方、「自己有用感」は、**誰かの役に立っている、貢献している等、自分が有用であると思える感情**のことです。**誰かに必要とされた、人に喜んでもらったなど、他人の存在なしでは生まれない感情**です。この点で「自己肯定感」や「自尊感情」とは異なります。

ところで、「自己肯定感」が高ければ「自己有用感」も高いかといえば、必ずしもそうとは限りません。「自分は能力があるのに、周りが認めてくれない。上手くいかないのは、親や学校、周りの人たちの責任だ。」と、他人に責任転嫁する人がいたとします。これは、自己肯定感だけが低い例です。また、走るのが得意な子がリレーの選手に選ばれたとします。「自分はクラスで一番足が速いので、クラス代表として選手に選ばれた。だから、みんなの期待に応えられるように頑張りたい。」これは、他者から認められ、期待されているという「自己有用感」を伴った「自己肯定感」です。単に「クラスで一番足が速い」という自信ではなく、他者のために自分の力を発揮したいという思いが高まっているのです。つまり、本人にとって足の速さは、さほど重要なことではないといえます。このように、**「自己肯定感」を高めるには、まず、「自己有用感」を高めることが大切だと思います。人の役に立つ、相手に喜んでもらう、子どもたちにはそんな体験を多く積んでもらいたいと思います。**

西谷中では今月開催される文化発表会に向けて、書道パフォーマンス、合唱、学年発表の取組みが日々進められています。リーダーの生徒や生徒会執行部を中心に、**37名の生徒と教職員が膝を突き合わせながら取り組みを進める中で、「自己有用感」と「自己肯定感」を共に高めていけるように、校長として支援に努めていきます。**